

Nobuhiro Shimura

《水鏡》2022年

MIZUKAGE MIZUKAGE

志村信裕「水影」2022年11月3日(木) — 11月27日(日)

会場 | 古民家いなえ 時間 | 10:30 — 17:00 開場日 | 木・金・土・日(祝日は開場) 入場無料/予約不要

【ワークショップ】

『身近な色に注目して4コマ絵コンテを描こう』

アーティストと一緒に「表現する」とは何かを体験するワークショップを開催します。

日 時：11月6日(日) 10:30～
11月20日(日) 13:30～
(所用時間は2時間ほど)

対 象：小中高生(小学生は高学年以上)

参加費用：無料

お申し込み：公式HPからご予約ください。

【プロフィール】

志村信裕 Nobuhiro Shimura

1982年生まれ
千葉県香取市を拠点に活動
2007年武蔵野美術大学大学院映像コース修了
2016年から2018年までフランス国立東洋言語文化大学の客員
研究員としてパリに滞在

身近な日用品や風景を題材にした映像インスタレーション作品から、近年では各地でのフィールドワークを元に、ドキュメンタリーの手法を取り入れた映像作品を制作。ローカルな視点から、可視化され難い社会問題や歴史に焦点をあてるプロジェクトを手がける。

近年の主な展示

「志村信裕展 | 游動」KAAT神奈川芸術劇場
(横浜、2021年)

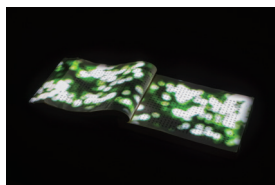
「つくりかけラボ02 志村信裕 | 影を投げる」
千葉市美術館(千葉、2021年)

「生命の庭—8人の現代作家が見つけた小宇宙」
東京都庭園美術館(東京、2020-21年)

「千葉の新進作家vol.1 志村信裕 残照」

千葉県立美術館(千葉、2019年)

「21st DOMANI・明日展」国立新美術館(東京、2019年)



《光の曝書》2014年 photo: Ken Kato

「影」は、写真や映像によって写された像、また実態のない記憶や過去の出来事を想起させます。さらに古語では「光」という意味でも使われており、両義的な意味を含む言葉です。

志村は利根川の記憶を辿る過程で、「嫁入り舟」でやってきた女性の背景に関心を向けました。本展では自らの足で女性たちに会いに行き、彼女たちが語る過去を取材し、その記憶に光をあてる新作映像作品『水鏡』、そして志村の代表作のひとつでもある『光の曝書』を展示します。

水の郷・佐原。利根川の水運とともに育まれてきた地域の歴史に光をあてます。川が流れるように忘れ去られた幾つもの記憶が、水の影となって映しだされるでしょう。

—— 志村信裕

- 主 催： 佐原アートプロジェクト実行委員会
佐原みらい運河株式会社
- 協 賛： 株式会社エヌアイディ
一般財団法人 小森文化財団
- 企画協力： Color Lounge Art株式会社
特定非営利活動法人佐原アカデミア

古民家いなえ

〒287-0003 千葉県香取市佐原い511

アクセス：JR佐原駅より徒歩10分
東関東自動車「佐原香取」ICより約5分

空き駐車場の情報もご確認いただけます。▶

公式HP

